

【自己診断シート】

ライフプランといっても遠い将来の話ではなく、まずは今、自分自身が親によって養われ、親はお金のやりくりをしていることに気付かせる必要があります。このコンテンツでは、自立した生活者となるためには、ライフプランの必要性や、お金のことも考える必要があることに気付かせます。また、資産運用におけるリスクとリターンについても学習します。

Aの解説：

日々のお小遣いや、欲しいものを買ってもらうだけでなく、自分の普段の生活自体にお金がかかっていることを気づかせます。「生きて行くことにはお金がかかる」ことを理解させ、ライフプランを考える入口とします。

Bの解説：

ライフプランを考えることは、一定の目標地点を置き、そこへどうつなげればいいのかプロセスを考えることでもあります。「どんな自分になりたいか」を目標として捉えさせて次の問いへつなげます。

Cの解説：

進学・就職・結婚・出産・マイホームの購入などのライフイベントを大まかに考えさせ、その実行にはある程度まとまったお金が必要であることを意識させるのが目的です。

Dの解説：

リスクについて学ぶ前に、用語の確認をします。金融商品におけるリスクとは「危険」という意味ではなく、将来得られる結果のばらつき具合（不確実性）を意味します。

設問2の解答：

生徒が自分のお金の貯め方や使い方を再認識し、本コンテンツへの興味関心を持たせます。

【確認テスト】

〔解答〕 1：A 2：C 3：B

〔解説〕

1：自分の将来について漠然とではなく、自分がどんな人生を送りたいか、夢の実現のためにどうすればいいかということを考えることが、ライフプランの第一歩です。

2：「貯蓄」は、安全・確実にお金を「貯める」ことに重点が置かれています。「投資」は、お金を「ふやす」ことに重点を置いています。株式投資は収益性は高いですが、価格が変動するため、大きく資産がふえる反面、大きく減らす可能性も高くなります。

3：金融商品の性格をリスクとリターンで分類した場合、預貯金・債券・株式がどこに分類されるかを考えます。預貯金は安全性が高く収益性が低いことから、リターンもリスクも低くなります。株式は収益性は高く安全性は低いいため、ハイリスク・ローリターンに、債券はミドルリスク・ミドルリターンに位置づけられます。